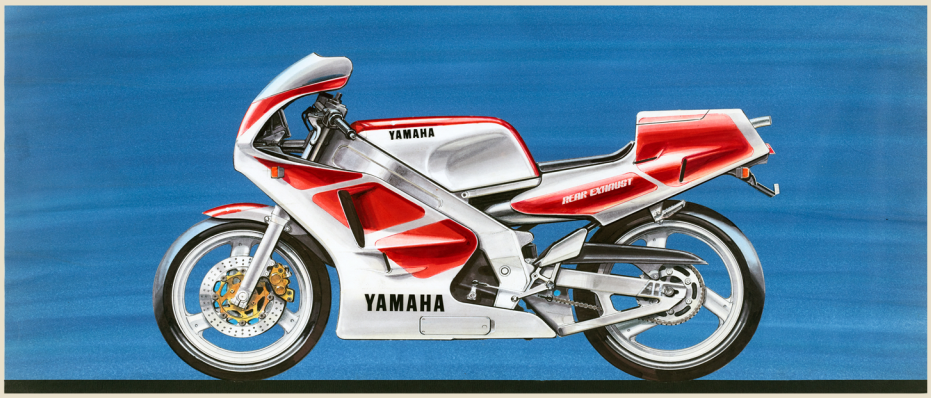
TZR250

1989年 / 市販車

１９８５年に発売された TZR２５０(1KT) は、開発メンバーにロードレースのワークスマシンの
エンジニアを迎え、当時 YZR５００が採用したばかりのアルミ・デルタボックスフレームを
市販車として初採用するなど、新設計のエンジンと合わせ、それまでのロードモデルとは一線を画した
完成度の高い乗り味となり、多くのユーザーから支持されることとなった。
当時、ロードレースの世界では、ライバルメーカーが V 型エンジンの開発に注力していた一方、
ヤマハは市販レーサー TZ２５０で採用していた後方排気レイアウトを踏襲、高回転型でより
サーキットでの走行に適したエンジンは２４９cc ４５ps 8,000r/min の性能であった。
後方排気レイアウトの特徴となる排気チャンバーだが、それからサイドカウルまでの熱対策上の
クリアランスは、レーサーの場合と違い相当量を確保する必要があり、デザイン上は非常にネガティブ
な要素であった。デザイナーはチャンバーの容積を計算し形状を再構成し、最大幅となる位置を調整
することで、人が跨った際に違和感のないサイドカバーの形状についてエンジニアと議論を交わし、
結果的に機能的でありながら、有機的かつ感性に訴える造形としてまとめられた。



COMMUNICATION
P L A Z A